

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500905		
法人名	社会福祉法人 大村福祉会		
事業所名	グループホーム 泉の里 NO1		
所在地	〒856-0831 大村市東本町583		
自己評価作成日	令和3年1月10日	外部評価結果確定日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270500905-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①特別養護老人ホーム、デイサービス、ホームヘルパー事業所と併設されており、それぞれの事業所の利点が活用できます。
 ②身体状況が低下した場合、特養への移動がスムーズです。
 ③さまざまなボランティア団体の慰問があるため、地域の皆様との交流が盛んです。
 ④駅前の立地により利便性が高く見学を、される方は随時対応しています。
 ⑤介護福祉士による認知症の専門的ケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大村駅、アーケードに近く、とても便利がいい場所にある。同じ建物に、特別養護老人ホーム、ショートステイもあり、途切れることなく、一体的な介護ができる環境である。グループホーム単体で会議をする時には、法人内の他の事業所から夜勤の応援を依頼するなど、協力体制ができています。また、法人内には企業内保育園もあり、働く親の手助けともなっている。入居者様の個人別のファイルが、看護と生活と2種類にすみ分けしており、分かりやすく工夫されている。また、緊急時のファイルも作成されており、緊急の際には、そのファイルを持って行くことで入居者様の状態が分かるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「その人らしく生き生きと」を毎朝、朝礼時に職員全員で唱和しています。	職員は毎朝、理念を唱和をしており、各ユニットの入り口には、理念を掲示されており、入居者様は理念を読み上げる方もいるとのことである。職員は、入居者様主体で尊重することを念頭におき、日々接している。理念を実践した例では、最近入居された方が、家事が好きだということが分かり、洗濯物をたたんでもらったり、食器を拭くなどをお願いしたところ、にこにこして行っていたとのことである。このことは、入居者様のことを尊重し、その人らしく対応をしている実践の表れである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	男性職員は地元の消防団に所属し、法人全体で活動している。	近くの美容室から、訪問散髪で来所をしてくれている。以前は、近くの小学校の運動会に行ったり、法人内に慰問があり、入居者様は楽しみにしていたが、現在コロナ禍の為、中止している。コロナウィルスが落ち着けば、再開をしたいとのことである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習、専門学校生、高校生の実習生を受け入れている。これからの若い世代の皆さんに入居者様と関わっていただくことによって認知症の理解を深めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。サービス内容や課題、内部・外部研修の報告を行っている。昨年度より構成員の人数が増え率直な意見をいただき参考にさせていただいている。	コロナ禍の為、現在は書面会議となっている。消防団団長、専門知識を有する方も書面会議参加者に入っている。家族へは、議事録を郵送している。書面会議ではあるが、書面参加者より質問があったことは、きちんと回答をし議事録にも残している。対面での運営推進会議を行っていた頃は、家族やご入居者様の参加もあったとのことである。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で活動内容や、ヒヤリハット、事故の内容(検証会による今後の対応)等、現状をお伝えしながら意見をいただいている。	大村市長寿介護課の方とは、運営推進会議の時や、介護保険更新等の際に話すことがあるとのことである。生活保護の方がもしいる場合には、大村市と連携をとるとのことであるが、現在は生活保護の方はいないとのことである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束適正化委員会を開催し、現在は身体拘束にあたるケースはない。 H30年4月に身体拘束適正化の指針を作成した。	グループホームの職員も、法人内の身体拘束適正化委員会に所属しており、また、年1回全体研修も内部で開催されている。身体拘束は基本的にしない方針である。入居者様で、点滴を抜く方がいた時には、ずっと職員がついて対応をしていたとのことである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者権利擁護委員会で活動している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見人制度を利用している方は居ないが1ヶ月前までは利用している方がおられた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に丁寧な説明を心がけている。お尋ねがあればいつでもご相談に応じるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会で質問や意見をいただく機会を設けている。又面会時に現況をお伝えして介護計画の参考にしている。	9月の法人の創立記念日の時に、家族を招待し、食事をともにしながら、職員と話しをする機会がある。コロナ禍の中で、令和2年度は開催できなかったとのことである。コロナが流行を始めた頃から、家族の面会を禁止して、感染が落ち着いてきた時期は、ガラス越しの面会を実施していたとのことである。まだ今は面会禁止としており、ご家族の希望でご入居者様にタブレットを持ってもらっている人もいたとのことである。コロナ禍の中では、お便りを2ヶ月に1回出すようにしており、写真や近況を送っている。面会ができない為、できるだけ入居者様の状況が分かるよう、家族から以前は笑っていないと聞いた入居者様は、笑顔の写真を送るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	セクション会議等で意見を出し合っている。時間内に話がまとまらないときはリーダー会議で内容を整理し代表者へ提言している。	グループホームの職員だけの月1回、セクション会議を行い、その中で、業務改善について話することもあるとのことである。そこで挙げた意見は、部長から理事長へ報告をしている。職員は、自分が伝えたいことをセクション会議で言ったり、必要に応じて管理者や部長へ相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情を配慮しながら勤務体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に介護技術勉強会を開催している。医療技術勉強会については服薬管理や感染症対策等、その次期にあった内容を学んでいる。介護福祉士受験前には受験対策の勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は2ヶ月に1回連絡協議会の事例検討会に参加している。管理者に限らず、市や医師会、県央地区が開催する勉強会に参加している。今年はコロナ禍のため中止されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話の中で不安なことはないか、要望等を確認している。聞き取りが難しい方にはご家族も交えて伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容については入居前の相談や入居契約の際に、出来る事、出来ない事を明確にしている。場合によってはご家族に支援をお願いする場合もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じて、その方に必要なサービスを考えている。併設の特養ケアマネや在宅介護支援センター、有料老人ホームのケアマネと連携しながら、毎週行われる入所判定会議で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意としていることを把握し、洗濯物をたたんだり、食器を拭いたり職員と協力して一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	概ね3ヶ月ごとに現況報告として「お便り」を作成している。行事や日常のご様子を写真にとって健康面や生活面などの報告をしている。入居相談時や契約時、面会時にこれまでの生活歴等伺いながら参考にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみのお店に買い物に行っています。近くの美容室から定期的に散髪に来ていただいています。	以前は、日常的にアーケードに散歩のついでに買い物に出かけたり、クリスマスの時期はイルミネーションを見に、夜に出かけていることもあったが、コロナ禍の為、現在は実施できていない。コロナが落ち着いたら、また再開したいとのことである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格によって仲良しの関係を把握して、一緒に過ごしていただいている。イベント時は隣同士で座っていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたら今までとりためた写真をまとめて家族へ贈っている。初盆参りにも行かせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な場合は、その方の生活歴やご家族からの聞きとりによって対応を検討している。職員の知りえた情報は共有できるようにミーティング帳を活用している。	言葉を発しづらい入居者様は、目の動きや表情で確認をしており、意思疎通が全くできない方はいないとのことである。入居者様が、家に帰りたく希望をされた場合には、ご家族に、例えば夕食まで連れて帰ってもらえないか相談をして、ご家族も協力してくれている。職員の気づきがあれば、ミーティング帳に記載し、情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	さまざま行事への参加の中で昔の話をしていただいたり、その方の生活歴が把握できるような話し掛けやきっかけ作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や介護状況表を記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成した介護計画を基に、その方に合わせたサービスの提供を行うよう話し合っている。残存能力を活かす取り組みを実践する。	短期目標は半年、長期目標は1年で見直している。レベルが下がる時には、見直しをし、急ぎで変更が必要な場合は、ユニット内で変えた後、ミーティング帳に記録し、情報共有している。ケアプラン内容が改善点がないか、セクション会議で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録、介護状況表を記入している。職員間ではミーティング帳を活用し情報の共有を図るとともに終礼に時確認を行っている。毎朝出勤時に各自ミーティング帳を確認してから始業する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊時には薬の準備をします。今年はコロナ禍の為実施できていない。また食器など、その方に合ったものに変更したりワンプレートに変更し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大村市のボランティアセンターからヘッドマッサージに来てもらっているが、今年はコロナ禍の為、中止してる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医のほかに、入所前から通院している病院への受診対応をしている。また、複数の医療機関に協力をお願いしている。受診に同行した職員がご家族への状況説明を行っている。	かかりつけ医は、ご入居前から継続するのは可能であるが、体が不自由になり歩行が困難となった場合には、ご家族にも相談をし、往診ができる委託医へ変更依頼をしている。病院受診はご家族か、職員かのどちらかが同行をしている。以前は、ご家族と病院受診をした後に昼食をとって帰ってくることもあったが、コロナ禍の為、現在ではできないとのことである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は体調の変化や気づきを看護職員に報告している。看護職員が不在の場合は介護職員の記録を基に連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日頃の支援方法等の情報を病院に提供している。顔なじみの職員が定期的な面会で洗濯物や必要なものを届けにげを行っている。回復状況や入院中の様子等記録している。また、家族、入院先の医師や看護職員とのカンファレンスを行い、早期退院を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を定め入居時に必ず説明している。また、重度化してくると主治医、ご家族、介護職員とカンファレンスを行い対応しうる最大のケアを提供している。	ご入居の契約の際、「看取り方針に対する同意書」をもらう。この同意書には、今後終末期を迎えた時、「①救急車を呼び病院で治療②施設で治療③自宅へ帰り見守り、④その他」の中でどのような対応をしてほしいかの内容である。終末期を迎えた頃には、再度先生から病状説明を行い、家族と今後の方針を話し合っている。管理者が赴任してから、2名看取りをしたとのことである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度普救急救命免許の更新があり、全職員が心配蘇生法のトレーニングを行う。普及員の再講習に参加し最新の蘇生法を学んでいる。緊急時には消防署からの救急要請時対応ガイドを活用し、各自の救命連絡シートを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月の消防訓練に加えて年に2回総合消防訓練を行っている。(消防署・、地元消防団・地域住民参加)法人全体で地元消防団に入り、常に地域と連携を図っている。	自主的に毎月避難訓練を行っている。特別養護老人ホームとショートステイと合同で実施し、入居者様は、非常口まで避難するようにしている。避難訓練は18時から実施し、夜間対応を想定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の性格に合わせた言葉かけを行っているが、話し言葉に配慮が欠けていることがある。	高齢者権利擁護委員会の中で、言葉使いについて話をすることもあるが、管理者は、常に言葉使いについては職員へ、言い続けていかなければいけないという認識である。グループホーム泉の里介護職員心構えについてのリーダー評価表があり、基本姿勢、業務姿勢、自己覚知について20項目についてリーダーが評価している。これは、最終的には理事長に提出している。	入居者様に対する『言葉使い』について、グループホーム職員全員で自己評価や自分の担当ユニットの総合的な評価を行い、どのような時に言葉使いが乱れたり、『ちょっと待ってください』のスピーチロックが目立つか検証と共有を行うことが望ましい。また、可能であれば現状の分析から課題を抽出して改善に向けた具体的な取り組みへの行動転嫁を同時に期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心がけ、入浴時やリラックスされている時に尋ねている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いに生活されている。ほとんどの方がリビングでテレビを見たり入居者同士談笑されている姿をよく拝見します。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや朝の整容や入浴後などの洋服選びの支援や、訪問カットの日は、どんな髪型にするかと美容師さんに相談されている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様がこれまで使っていた食器を持参していただいている。食事前には皆で口腔体操を行っている。食後は食器やお盆を拭いてくださっている。	法人内の厨房で作られたおかずなどを、グループホーム内で各入居者様の器に盛りつけてしている。ご飯は、グループホーム内で炊いている。簡単なおやつ、例えばフルーチェなどをグループホーム内で作ることはある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えたバランスの良い食事を減塩食や小刻み食、ミキサー食等の食事形態で提供している。嚥下困難な方にはトロミ材を使用している。食事摂取量・水分量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。口腔内の重要性をお伝えし介助が必要な方には仕上げ磨きを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適宜声かけ・誘導を行っている。尿量に応じて使用するパッド等の検討を行っている。	日中はできるだけトイレに座ってもらい、排泄ができるようにしている。また時間誘導をしたり、入居者様のサインをキャッチして、できるだけトイレへ誘導をしている。夜間はぐっすり眠ってもらう為に、大きいパットを使用したりと、パットの種類も現在5種類を使い分けている。トイレで排泄をする一連の流れも、リハビリになると捉えて、日々介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い便秘時は緩下剤の服用や腹部マッサージを行っている。 毎朝、ラジオ体操を習慣としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で対応している。身体状況によっては二人体制で対応している。体調不良があれば全身清拭や足浴等で対応している。	火曜日から日曜日までの14時～16時までの間で入浴をしている。1日3人を目安にしており、週2回入浴できるようにしている。入浴の準備は、入居者様と一緒にしない、自己決定を大切にしている。入浴を拒む場合には、翌日の人と入れ替えるなど臨機応変に対応している。また、シャンプーなど好みのものを使用することも可能としており、職員が購入した際には家族に説明をし、購入代金をいただくなどの対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中午睡をしていただいたり、ソファでくつろいでいただいたり活動を促しながら安眠に繋げるよう支援している。不安症状がある場合、ソファで傍らに寄り添うって安心感を持てただけよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って対応している。また、その日の服薬担当者を決め支援している。副作用や注意点はミーティング帳に記入し周知徹底を図っている。薬の内容はファイルを作り変更や追加等、整理し管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、茶葉の袋詰め等役割を持っていただき、その都度、感謝の気持ちを伝えている。その方の得意分野を把握し職員と一緒に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年はコロナ禍にあり外出支援ができていない。通常はアーケードまで一緒に出かけたり、気候が良いときはドライブに出かけることもある。また、自宅へ帰ったり、法事やお祝い事に参加される際の送迎も行っている。	以前は、天気がいい時に近くのアーケードや、スーパーに買い物に誘っていたが、コロナ禍であり現在は外出ができてない。コロナが落ち着いてきたら、また外出をしたいとの希望である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭を持っている方も居ます。基本的に不足品等は家族が買って届けたり、職員が代行して買い物に行っている。ドライブなどの時にご自分で飲み物を購入される方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が家族に連絡を希望されたときは電話をかけ用件を伝えている。毎年、年賀状を書いておられる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けは3ヶ月毎に職員が担当している。	訪問調査時は、ひなまつり前でもあり、共有部分に、ひなまつりの飾りつけをしてあった。湿温計を各ユニットに設置し、空気清浄機も使用している。コロナ禍でもあり、定期的に換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いすやソファを配置しプライベート空間を作っている。気の合う入居者同士で利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでご本人様が使用していたなじみの物を持ってきてくださるよう、ご家族様へ呼びかけている。	各居室のエアコンの設定等は、入居様ご自身で行ったり、入居者様の管理が難しい場合には、職員がいる場所で集中管理している。ご自宅から思入れのある物を持参してもらい、中にはミシンを持ち込んでいる方もいるとのことである。衣替えやオムツの発注は、担当職員が行い、担当職員が部屋の中の壁に貼り付けをして、工夫をしながら過ごしやすい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう大きく表示している。居室の入り口にも大きく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500905		
法人名	社会福祉法人 大村福祉会		
事業所名	グループホーム 泉の里 No2		
所在地	〒856-0831 長崎県大村市東本町583		
自己評価作成日	令和3年1月17日	外部評価結果確定日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4270500905-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①特別養護老人ホーム、デイサービス、ホームヘルパー事業所と併設されており、それぞれの事業所の利点が活用できます。
 ②身体状況が低下した場合、特養への移動がスムーズです。
 ③さまざまなボランティア団体の慰問があるため、地域の皆様との交流が盛んです。
 ④駅前の立地により利便性が高く見学を、される方は随時対応しています。
 ⑤介護福祉士による認知症の専門的ケアを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念である「その人らしく生き生きと」を毎朝、朝礼時に職員で昭和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	男性職員は地域の消防団に所属し法人全体で活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習や、専門学校生、高校生の実習生を受け入れています。これからの若い世代の皆さんに認知症について入居者の皆様と関わっていただくことで理解が深まっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しています。サービス内容や課題、内部、外部研修会等の報告を行っています。今年度より構成員の皆さんが増えたことで、内容が充実し、交流も増えています。率直な意見をいただけるため、参考になっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、活動内容や、ヒヤリハット、事故の内容(検証会による今後の対応)等の現状をお伝えしながら、意見をいただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束適正化委員会を開催しており、現在は身体拘束に当たるケースはありません。ベッドの位置や身体拘束適正化の為の指針を平成30年4月に作成した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で高齢者権利擁護委員会を作り活動している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方がおられましたが退去されましたので現在はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は丁寧な説明を心がけている。入居後でもお尋ねがあれば、いつでも相談に応じるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会で質問やご意見をいただく機会を設けている。また、面会時、現況報告し介護時計画の参考にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は以前に比べ出やすい雰囲気になってきている。それぞれの意見を反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情に配慮しながら勤務体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な介護技術勉強会を開催している。医療技術勉強会に関しては服薬管理や感染症対策等、その時期に応じた内容を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は2ヶ月に一度のGH 連絡協議会での事例検討会に参加している。また、管理者に限らず大村市や医師会県央地区が開催する勉強会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話の中で不安なことはないか、要望等を確認している。聞き取りが難しい方についてはご家族も交えて伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容については入居手続きの段階で出来る事と出来ない事を明確にしている。場合によってはご家族に支援をお願いすることがあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じて、その方に必要なサービスを考えている。併設の特養CM、在宅介護支援センター、有料老人ホームのケアマネと連携しながら毎週行われる入所判定会議で検討します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意としていることを把握して洗濯物をたたんだり、お茶碗を吹いたり、職員と協力して一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	概ね3ヶ月ごとに現状報告として「おたより」を作成している。行事や日常の様子を写真にとって健康面や生活面等の報告をしている。面会時にこれまた絵の生活暦等を伺いながら対応の参考にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみのお店に買い物に行っています。近くの美容院から定期的に散髪に来ていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や性格によって仲良しの関係を把握して、一緒に過ごしていただいたり、慰問や外出の際は隣同士で座っていただいています。難聴の方については筆談を交えながら対応に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたら、これまでの写真をまとめて贈っています。初盆参りも行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な場合は、その方の生活歴やご家族からの聞き取りによって対応を検討しています。職員の知り得た情報は、共有できるようにミーティング帳を活用しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な行事への参加の中で昔の話をしていただいたり、その方の生活歴が把握出来るような話しかけやきっかけ作りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や介護状況表の記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成した介護計画を基に、その方に合わせたサービス内容の提供を行うよう話し合っています。 職員によっては、ご本人様ができることまで介助してしまうことがあるため、残存能力を活かす取り組みを実践します。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や介護状況表については、関わった職員が必ず記録し、薬の追加や変更があればミーティング帳に記録し、終礼時に報告します。統一したケアが行えるように、毎朝出勤時に各自で確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的にご自宅へ外泊される方については、薬や衣類の準備をします。また、食事の際、食器を持つことが難しい方については、コップや食器を軽いタイプに変更したり、ワンプレートの食器を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大村市のボランティアセンターから、ハンドマッサージに来ていただいています。リラックス効果があり、好評です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医のほかに、入所前から通院している病院への受診対応をしています。また、複数の医療機関に協力をお願いしています。受診に同行した職員がご家族への状況説明を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、体調の変化や気づきを看護職員に報告するとともに、看護職員が不在の時は、介護職員の記録をもとに連携を図っています。受診の同行をした場合は、ケース記録や介護状況表に記録しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日頃の状況を含めた支援方法、情報を病院に提供しています。顔なじみの職員が定期的な面会で洗濯物や尿取りパットをお届けしています。回復状況や入院中のご様子を記録しています。また、ご家族、入院先の医師とカンファレンスを開催します。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を定め、入居時に必ず説明しています。また、重症化してくると、主治医、ご家族、介護職員とカンファレンスを行い、対応しうる最大のケアを行っています。ご家族の気持ちの変化が生じてくるため詳細を確認するためのカンファレンスを開催します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度普通救急救命免許の更新があり、全職員が心肺蘇生法のトレーニングを行います。普及員の再講習にも参加し、最新の心肺蘇生法を学んでいます。緊急時には消防署からの救急要請時対応ガイドを活用し、お一人ずつ救急連絡シートを作成しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月の消防訓練に加えて年に2回総合消防訓練を行っています。(消防署・地元消防団・地域住民参加) 法人全体で地元消防団に入り、常に地域と連携を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の性格に合わせた言葉掛けを行っているが、話し言葉に配慮が欠けていることがある。時としてあだ名で呼ぶことがあった。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気づくりに努め、入浴時やリラックスされている時にお尋ねをするよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いに生活をされている。職員は必要以上に干渉しないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型については美容室と連携を図り、どんな髪型にするのか毛染めなどを決められている。また、着替えの選択等、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様がこれまで使っておられた食器を持参していただいている。食べやすさや、その方の残損能力を考慮して介護用食器やコップを準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てたバランスの良い食事を提供している。また、利用者様にあわせ常食、刻み食、中刻み食、小刻み食、ミキサー食等の食事形態で提供している。水分量、食事摂取量は記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行い口腔内の清潔保持に努めている。介助が必要な方には仕上げ磨きのお手伝いを行っている。夕食後には義歯洗浄剤を使って義歯の清潔保持に努めている。また、定期的に歯科往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し適宜声掛けや誘導を行っている。尿量に応じて使用するパッドの検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い緩下剤の使用や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で対応している。身体状況によっては二人体制で対応している。体調不良があれば全身清拭や足浴等で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中午睡をしたりソファでくつろいでいたいたり、活動を促しながら夜間の安眠につなげるよう支援している。不安症状がある場合はリビングのソファで傍らに寄り添って安心感を持てただけよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに沿って取り組んでいる。担当者を決め服薬介助を行っている。薬の追加や変更等はミーティング帳に記載し周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、お茶の葉を袋に詰めたり、お盆を拭いたり役割を担っていただいている。その方の得意分野を把握し、出来る事を職員と一緒に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アーケードまで職員と一緒に散策に出かけたり気候が良くなるとドライブに出かけていますが今年度はコロナ禍にあり、なかなか外出の機会がもてなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭を持たれている方もおられますが日用品等の不足品があればご家族が購入されるか職員が代行して買い物に行っている。ドライブ等の外出時の飲み物を購入したりされる方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望された場合は電話をかけ用件をお伝えしたり、ご本人様が電話口に出られ、お話をされることもある。毎年年賀状を書かれる方については職員が付いて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくよう3か月ごとに職員が担当制でフロア内の飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを配置しプライベート空間を作っている。気の合う入居者様同士で利用していただいている。時に場所争いがあり職員が仲介することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでご本人様が使用されていた馴染みの物を持ってきていただけるようご家族に呼びかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入りに大きく表示をしている。		